



Vol. 155

CONTENTS

【コラム】学校全体で取り組む情報教育の推進…稲垣 俊介
【解説】東北大学における業務の DX 推進…藤本 一之・佐藤 卓



COLUMN

学校全体で取り組む情報教育の推進

昨年度（2023 年度）まで東京都立高校の情報科教員であった筆者は、情報科の教員がほかの教科に比べて圧倒的に少数であるため、ほかの教科の教員、保護者や地域と協力して情報教育を推進する方法について積極的に取り組んできた。以下にこれまでの具体的な実践と、実現には至らなかったが温めていた構想を紹介する。

第一に、「自身の授業を公開すること」を積極的に行ってきた。ほかの教科の教員が情報科の授業を見学する機会は少ない。よって、自身の授業を公開することにより、彼らに情報科の授業がどのように行われているかを理解してもらうことができた。特に、生徒がプレゼンテーションを行う場面では、その授業のクラスの担任の教員をはじめ多くの教員が授業の見学に訪れ、情報科の教育活動を間近で見ることができる。これは、教員間の理解を深めるとともに、情報教育の重要性を学校全体に広める契機となったと思われる。

第二に、「外部の専門家とのコラボ授業」を実施し、研修会等で出会った情報通信ネットワークや情報デザインなどの専門家を授業に招いた。これは、専門家による講演ではなく、教員とともに授業を進める形式であり、専門家が現場での体験や知見を直接生徒に伝える形式で行われた。生徒はこれに非常に興味を持ち、授業がより活発になった。また、専門家の話を通じて、生徒たちは情報技術が社会でどのように活用されているかを具体的に理解することができたと感じている。

第三に、「保護者会での働きかけ」を行い、情報教育の重要性を保護者に説明し、その支持と理解を得るために努力した。情報科の授業を受ける学年の保護者に向けて、授業の目的や内容を詳しく説明し、情報分野に関する素養が社会の一員としてどれほど重要かを伝えた。これにより、保護者からの貴重な意見を受け取り、時には情報教育への協力を得ることもあった。具体的には、不定期に発行している「情報科通信」という生徒や保護者向けの通信に、保護者の方が社会人としてどのように情報技術を活用しているのか、さらに情報教育の重要性を語っていただいた。同じ立場である保護者から語られることは、保護者への情報教育への理解に大きく貢献できたと実感している。

第四に、「部活動を通じての学校行事への貢献」を行った。情報関連の部活動の顧問として、生徒たちが自主的に動くことを促し、体育祭や文化祭での撮影、アナウンス、パンフレットや動画作成を行った。これは生徒たちにとって自己表現の場となり、また情報技術の実践的な活用を学ぶ機会となった。

上記の各活動を行ってきたが、実現できずに温めていた今後の構想として「情報祭」を提案したい。体育祭や音楽祭は体育や音楽の教員が主体となっているように、情報科の教員が主体となり、行事を創出することができれば、情報教育のさらなる活性化が期待される。たとえば、各クラスにて地域や学校の課題を取り上げ、それを情報技術によって解決をすることを目指し、その解決を目指す過程や結果を発表する機会を作ることが考えられる。ほかにも、各クラスで情報技術を用いて映像作品を作成し、発表することなども提案できる。このような情報祭を通じて、学校全体、地域社会、生徒たちが一体となって問題解決をするプロセスは、教育の新たな可能性を開くことを期待できる。

情報科教員がほかの教科の教員や地域社会と連携し、情報教育を学校全体で推進することの重要性は計りしれない。情報科は学習の基盤となる教科であるため、積極的に関係者を巻き込みながら、その推進に努めることが必要である。このためには、情報科教員が先導し、効果的なコミュニケーションをとり、協力を促進することが第一歩となる。その学校現場での取り組みの応援を私はこれからもしていきたい。



稲垣俊介（山梨大学）（正会員）<https://inagaki-shunsuke.jp>

博士（情報科学）、山梨大学教育学部准教授。本会情報入試委員会、情報科教員・研修委員会、会誌『情報処理』編集委員会の委員などを務める。17 年間にわたり、東京都立高等学校の情報科教員として教鞭を執った後、現職に就く。文部科学省の高等学校情報科教員研修用教材の作成において WG 委員を務め、教科書『情報 I 図解と実習』（共著：日本文教出版）をはじめ、多数の著作がある。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata